

名古屋女大 中野 刀子  
○旧井 秀子

1. 色彩の効果について、物理学・照明工学・心理学などの分野においては、相当明らかにされているが、生理的な問題特に疲労という現象を生理学的に検討した報告は比較的少ない。そこで今回は視作業による色疲労について報告する。

2. 1)実験1として蛍光灯を照射して10分後、照度を200 Lux に調節し、ミシン縫い作業を行ないその前後にFlicker 値の測定をする。2)実験2では500Lux 半直接照明下でミシン作業を行ないその前後に自記眼精疲労計を用いて調節時間の測定をする。

3. 1)緊張時間、弛緩時間とも400回転が、疲労が少ない。このことは、ミシン針のちらつきの量的問題からくる。2)ちらつき刺激からみて、400回転を境に500,600回転から疲れ出してくる。Wは別として、回転数が速くなるとR, Y, B, YGの順に疲れるが、200,300回転では、R, B, YG, その順に疲れる。